豊洲 雑感

吉田 珪子（江東区ボランティアガイド）

開場前の豊洲市場の一部遠景

あれは昨年の早春の頃だったのか…。　江東区のイベントガイドとして開場半年後の豊洲市場内をゲストたちに御案内することとなった。いつもなら船上から春海運河を通過の場合、移転の経緯や場内構造等をトリビア情報を交じえながら「河童の川流れ」よろしく速やかに（！？）通過していく訳だけど、今回は徒歩で２時間のじっくり巡る長丁場の陸上案内！そうは簡単にはいかない。

さっそく徹底的に現地の資料収集をすべく約１週間の長きにわたり朝もはよからアサインされたガイドの中から有志達数人が市場に参集することになった。

早朝５時台の地下鉄・大江戸線はご想像通り乗客まばらのガラガラ状態！これに飛び乗り、「勝どき駅」へ。着いたら今度は猛ダッシュ！　階段を脱兎のごとく駆け上り超満員の豊洲市場行きのバスにかじりつくように乗車。　でももはや「河童」から飛び移りが御得意の「ムササビ」に変〜身〜しようたって無理だって！もう寄る年波には勝てぬこと思い知らされてしまう。バス車内ではゼイゼイ息が上がってしまう自分にがっくりの日々だった。

数日後、いつものように市場行きのバスに飛び乗るとすぐ後ろに同じく飛び乗った８０代半ばであろうご老人が荒い息をして揺られている。　端で見ていても気の毒なほど肩が波打っている。私よりひどい状態だわ。　思わず「大丈夫ですか？」と声をかけてしまった。

「齢は取りたかねえや…。このバス乗るのに勝どき駅を駆け上がってくるだろ。これの発車時間と大江戸線の到着時間が１分しか違わないからなあ」。

それなら次のバスにすればよいのにと思わずそう伝えると、「馬鹿言っちゃいけねえよ！　おっとり刀で行った日にゃ、いい魚は皆よられてしまった後なのさあ！」と言葉は荒いが、バスに間に合った安堵感からなのか案外優し気な眼差しでこちらを見て話を続けてくれた。

なんでも大正期から続く中野の鮮魚商で彼の代で３代目とか。自宅から自転車で中野駅に出て東西線に乗り門前仲町へ―。　今度は大江戸線に乗り換えて勝どき駅に到着！次に猛ダッシュしてこのバスに乗車するのがお決まりのコースだそうで「豊洲は不便なことこの上ねえや！　東西線は始発が遅くてよ、この半年大変な思いしているんだよ。でも爺さんから続く魚屋を俺の代で閉じる訳にゃいかねえんだよ。倅にゃ好きな道行けって日頃から言ってたから今勤め人してる。そんでいいんだよ」と問わず語りに話し始め、魚河岸関係者らしい車内の周囲の人たちもしーんと聞き耳立てている。

「ところでネエチャン！何故こんな時間にバス乗ってんだい？　河岸の人間には見えないけどよ」と呼吸も整ったせいなのか私に疑問を投げかけてきた。　怖いっ！ドッキドキ！　意を決して豊洲市場のありのままを見ていただこうと、この数日、市場通いをしてネタを探している旨を伝えると意外にも貴重なアドバイスが頂戴できた。正直有難かった！

彼曰く「いいかい、豊洲は観光施設じゃねえよ。ここは男が命張って、生活かけて、商いしてるんだよ！　間違っても道の真ん中でお喋りして俺たちの邪魔しないでくれよ！じゃ気を付けてな！　最近の場内の車は音立てず忍び寄ってくるから後ろも見てよ！」。

以上、ほんの数分の会話だったが、遊び半分に市場を覗くことを戒め、大切な世界有数の魚市場である豊洲市場を働き手の邪魔にならぬよう細心の注意を払いつつ真摯にガイドに取り組むことの大切を改めて学んだ気がする。

＊＊＊　　＊＊＊　　＊＊＊

あの後、暑い夏も寒い冬も超えながら、中野のお爺ちゃん魚屋さんは今日も元気に竹籠下げて買い回りを続けているのかな。いつか又あのバスで再会できたならと密かに思う今日この頃である。　ガイドの基本の「き」を改めて教えてくれた彼に心から感謝！

イベント情報

〇総会　7月（予定）

〇水彩サロン２０２０春学期　澁澤榮一を語る　佐々木勇氏　　会場：森下文化センター

第1回：6月14日（日）14時〜16時　　第2回：7月05日（日）14時〜16時　　第3回：8月09日（日）14時〜16時

〇夜の水彩カフェテラス：10月17日（土）旧中川の川の駅周辺

江東区の水辺に親しむ会 会報「みずべ」36号　発行日／令和2年　4月30日　発行／特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会
〒135-0021　東京都江東区白河1-3-13-106　連絡先／Tel.03-5639-2818　Fax. 03-5639-2822　http://koto-mizube.org

特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報　2020年（令和2年）4月30日発行

みずべ Mizube Vol.36

江東区CITY IN THE GREEN 実現を目指して

2019年4月より豊洲ふ頭内公園の指定管理事業者として公園の管理運営を任されてからあっという間に1年経ちました。江東区の水辺に親しむ会の皆様には事業が始まる前からお世話になり、１年間様々な場面で支えていただきました。地元との連携が欠かせない公園管理運営において、開始当初から関わって頂ける江東区民の方がいることは大変心強く励みにもなりました。

豊洲六丁目第二公園、乗船場を活用したイベントとしてハンザの体験会や、船カフェ、水彩まつりなど、地元を盛り上げるイベントにご尽力いただき、共に連携できたことは良い思い出となっております。また、当公園の自主事業の中でも特に力を入れておりますガーデンクラブ活動に須永理事長を始め、関係者の方々に参加していただき、順調にスタートさせることができました。

秋には江東区が掲げておりますCITY IN THE GREENをマンションベランダの緑化事業として支えられている江東区の水辺に親しむ会と連携し、豊洲スタイルマーケットにてフレンドシップグリーンのテントを設け、挿し木や寄せ植えを一般の方に楽しんでもらいました。

様々な場面で連携し、協力いただいたことで無事に今日まで続けることができましたこと深く感謝申し上げます。2年目となるこの春にはさらに種から育てる野菜作りを通じた環境学習など、新しい試みも始まります。これからも共に水辺の利用や景観作り、教育事業に力を注ぎ、地元を盛り上げていく良きパートナーとしてご協力をお願い致します。

豊洲パークマネジメントＪＶ　副所長　近藤かおり

左上：グラスゴーの町の様子　私の大好きな右側の標語"People Make Glasgow"　右上：共同墓地から眺めるグラスゴー教会。右下：街の中心ジョージスクエアでのクリスマスイルミネーション点灯式の花火。

水辺便り Letter

スコットランドについて

増田光弘（東京海洋大学准教授）

平成30年3月1日～平成31年2月28日の1年間、在外研究としてイギリス最北端に位置するスコットランドの第二の都市グラスゴーに滞在していました。日本ではあまり馴染みのない都市の名前かもしれません。実際、滞在一年の間に現地であった日本人は3人程度でした。ただし、人口は580,690人でイギリス第4位、観光客の数はロンドン、スコットランドの首都エディンバラに次いで第3位の大都市なのです。とはいっても、面積では日本の第二の都市である大阪府の十分の一程度なのですが。町の中心を流れるクライド川沿いに発展した産業都市で、かつては造船業が栄え、「世界の船の半分はグラスゴー製」と呼ばれるほどでしたが、日本の造船業の台頭の影響もあり衰退し、現在はアートの町として多くの若者や観光客が集まる都市となっています。

スコットランド・グラスゴーは日本とも少なからず結びつきがあります。例えば、東京海洋大学越中島キャンパスにて公開されている重要文化財「明治丸」はかつてグラスゴーにあったネピア造船所で1874年に建造された船舶です。また、エディンバラ近郊のフォース湾に架かっている鉄道橋フォース・ブリッジは日本の土木技術者渡邊嘉一氏が建築工事に監督役として参画し、1890年に完成したカンチレバートラス橋です。その原理を説明した際の写真は2007年発行の20ポンド紙幣に載るほど現地では有名です。また、2018年9月にはダンディで日本人建築家の隈研吾氏が設計したヴィクトリア＆アルバート・ミュージアム・ダンディが開館しています。

さて、そのようなスコットランド・グラスゴーに皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？最初にイメージされるのはどんよりとした空、荒涼とした大地といったところではないでしょうか。実際、それは大当たりです。スコットランド・グラスゴーは一年を通して気温が低く、真夏の7月でも最高25度程度、冬場の最低気温は1度ほどです。空は曇りが多く、たまに晴れます。よく雨が降りますが、すぐに止みます。晴れ渡っていても突然雨が降ってきて、少し経つと止んでしまいます。このような気候でありながら日本と違って湿度が高くないので雨に濡れてもすぐに乾きます。そのため傘は持ち歩くだけ邪魔になるのでフード付きジャケットを着ている人が多いです。昔、北海道に住んでいたという知人は「グラスゴーの曇りがちな空は気が滅入る、日本は良かった。」と言っていました。私が「ただ北海道も寒いし、雪が凄かったのでは？」と聞くと「でも青空があるじゃない！」とのことでした。個人的には普段曇っているからこそ晴れ空の素晴らしさが引き立つのだと感じました。私にはこの気候が合っていたようです。それに寒空と荒涼とした大地はとても絵になるのです。因みにスコットランドのベストシーズンは5，6月です。この時期は暑すぎず、雨もあまり降らず晴れ間が多く、本当に過ごしやすいです。年間通して曇りがちなだけにありがたさが身に沁みます。個人的にはクリスマスシーズンもお勧めですが、スコットランドに観光に行かれる場合はこの時期がお勧めです。

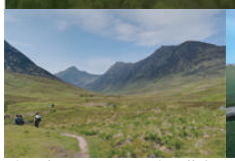
フォース・ブリッジ　本当に大きいです。

ロイヤルコンサートホールではクラシックコンサートが毎週末開催されていました。

スコットランド・グラスゴーは観光にも本当に良いところです。特に自然の景観が好きな方にはお薦めです。グラスゴー市内にはグラスゴー教会、あらゆる種類・年代の乗り物が展示されているリバーサイドミュージアム、サッカー好きの方にはセルティックFCのホームスタジアムであるセルティック・パークがあります。グラスゴーはアートの町なのでケルビングローブ美術館・博物館、ギャラリー・オブ・モダンアート、ロイヤルコンサートホールなど、（多くの場合、無料で）アートに触れる機会も沢山あります。スコットランド全体では、首都エディンバラのエディンバラ城やホリールード宮殿、ゴルフ好きにはゴルフ発祥の地セント・アンドリュース、自然の景観を楽しむのであれば、近場ではルモンド湖、私のベスト・プレイスであるグレンフィナン、ネッシーで有名なネス湖、海を渡ってアラン島、スカイ島、オークニー諸島、もう一つのベスト・プレイスであるシェトランド諸島など素晴らしい場所が沢山あります。スコットランドは大きくないので車で周ることができます。車も右ハンドル・左側通行で日本と同じなので運転もし易いです。

左：エディンバラ城　ハリーポッターのホグワーツ城のモデルになった城だそうです。右：ホリールード宮殿に隣接するホリールード寺院跡　メンデルスゾーンの交響曲第3番「スコットランド」の序奏部分はここで書かれたそうです。

左上：シェトランドのエシャネス灯台からの眺め　このような荒涼としながらも雄大な自然の景観がスコットランドの魅力です。右上：シェトランドのヤールショフ遺跡　この島は"The Scotland"という感じで本当にお気に入りです。右下：こちらに集まってきた羊の群れ　本当にかわいいです。



上：グレンフィナンの景観　荒涼とした大地と曇った空、それが絵になるのがスコットランドです。左下：アラン島でのハイキングの様子　こちらの人たちはよくハイキングにも行きます。右下：セント・アンドリュースのゴルフコース　18番ホールの手前にある世界一有名な小橋。

左：フィッシュ＆チップス　とてもおいしいです。右：国民的炭酸飲料アイアン・ブルー　大好きで冷蔵庫に常備していました。

ヤルコンサートホールなど、（多くの場合、無料で）アートに触れる機会も沢山あります。スコットランド全体では、首都エディンバラのエディンバラ城やホリールード宮殿、ゴルフ好きにはゴルフ発祥の地セント・アンドリュース、自然の景観を楽しむのであれば、近場ではルモンド湖、私のベスト・プレイスであるグレンフィナン、ネッシーで有名なネス湖、海を渡ってアラン島、スカイ島、オークニー諸島、もう一つのベスト・プレイスであるシェトランド諸島など素晴らしい場所が沢山あります。スコットランドは大きくないので車で周ることができます。車も右ハンドル・左側通行で日本と同じなので運転もし易いです。

もう一つ気になるのは食文化ではないでしょうか。スコットランドはイギリスですからやはり一番ポピュラーな食べ物はフィッシュ＆チップスです。やはり魚介類は美味しいです。あとはスコティッシュ・ビーフも美味しいですね。飛び道具では（私は大好きですが）悪名高い羊の内蔵のミンチ料理のハギス、原料不明の国民的炭酸飲料アイアン・ブルー（これも私は大好きです。）でしょうか。お酒ではスコッチウィスキーがあります。とはいえ、スコットランドは元々荒れた土地で作物はほとんど取れませんでした。そのため、スコットランドの食事は基本的に質素、シンプルです。私などはほぼ毎日フィッシュ＆チップスでも大丈夫という感じでしたが、大抵の日本人はそうはいかないと思います。日本の友人・知人が沢山訪ねてくれましたが皆さんおっしゃるのです、スコットランドらしいものが食べたい、と。ある意味この要望が一番頭を悩ませました。

最後に人の話ですが、スコットランドの人は本当にいい人ばかりです。私は仕事柄海外に行くことが多いのですが、1年も居て一度も嫌な思いをしたことがなかったのが本当に驚きでした。その前後にも計4回ほど出張や友人の結婚式のために訪れましたが、やはり同じでした。向こうで真の親切、思いやりとは何かを学んだ気がしました。これは観光するにしても留学するにしてもとても重要だと思います。これ以降、私はいつも観光・留学にお勧めなのはスコットランド、住むならグラスゴーに、ただし曇りがちな天気が大丈夫なら、と言っています。

何度かスコットランド・グラスゴーについて話をしたり、滞在記を書いたりしましたがそのたびにちょっとした本が書けるのではないかというくらい書きたいことが沢山あり、何を書こうか悩んでしまいます。いつも冗談で前世は多分スコットランド人だったと思う、なんて言っているくらい肌に合うところで、そのような場所に一年間滞在できたことはとても幸運でした。ただし、一年間滞在していたものの最初の三カ月は生活に慣れるのに必死、最後の二か月は帰国準備でバタバタするので羽を広げていられるのは実質半年程度です。途中他の国にも行きましたし（当時、イギリスはEU加盟国だったのでパスポートなしで加盟国を渡ることができましたし）、当然仕事もありましたし。そのため、スコットランドのすべてを見て回ることができたわけではないので、今後それがライフワークになりそうで本当に楽しみです。最後にこの一年間の滞在を助けてくれた多くの人に感謝の意を表して筆を置かせて頂きます。

晴れた日は友人と集まってバーベキューもよくします。